２０２４年１月　春季大祭神殿講話　大教会長

本日は、冬の寒さ厳しい中にも穏やかな結構なお日柄をいただいて、皆さんにはそれぞれお忙しい中を、遠近を問わず春の大祭にご参拝をいただきまして、誠に有難うございました。また、日々は教祖１４０年祭に向かってご丹精を下さり、誠に有難うございます。そして、城山につながる皆さんには昨年の１年間大教会の上に、記念祭をはじめたくさんのお力添えとご真実をいただき、本当に大変お世話になりました。今年１年もよろしくお願い申し上げます。

本日は大祭ということと、また、明日には2年に1度の教養掛研修会が開催されますので、いつもより多くの皆さんにご参拝をいただくことができましたので、大変有難く嬉しく思っております。そして、明日の研修会では教養掛としての自覚を高め、講師の先生を通して、身上者の方を修養科へ勧める上での大切なことを学ばせてもらい、実りある有意義な研修会にさせていただきたいと思います。

さて、皆さんもご承知のように今月の１日の夕方に、石川県能登地方を震源とする最大震度七の大きな地震が発生しました。被害の方は石川県をはじめ１府6県に及び、人的被害や住宅被害が報告されています。この度の震災でお出直しされた皆様のご冥福を、皆さんと心よりお悔やみ申し上げたいと思います。

地震が発生してから今日で3週間が経ち、その間皆さんそれぞれと被災地に向けて何かさせてもらおうと、心をつないで下さっているところだと思います。現在も被災地への復興が少しずつ進められておりますが、今も被災地の方は冬の寒さ本番の厳しい中で大変な思いをされておりますので、私達も被災地に心を向けながら、慎みの心を持たさせていただきたいと思います。そこで、今日は祭典後に被災地の一日も早い復興を願って、皆さんとご一諸にお願いづとめを

させていただきますので、ご承知置きの上よろしくお願い致します。

さて、今年も年が明けて早いもので三週間が過ぎますが、元旦より心新たにしてスタートされたことだと思います。今年は立教１８７年令和6年となります。そして、干支は辰年です。それでは、辰年はどんな年なのか？今年の辰年は甲辰（きのえたつ）と呼ばれていて、甲（きのえ）は、草木の成長を表す意味があり、植物が成長するように、どんどん勢いを増して増えていくという意味があります。そのため今年は、昨年まで努力してきたことが実を結んで、成就する年になると言われています。

ここで余計な話ですが、今年うちの娘の紗衣が年女なんです。辰年の女性の性格を調べて見ましたら、気が強い性格でストレスを溜めやすい一面があるそうです。うちの娘もそういった性格の一面がありますので、昨年は寅年であるうちの家内と激しくぶつかりあうことが何度もあったんです。時にはなぜか、私も息子も二人の争いに巻き込まれて被害をこうむりまして、その時息子と二人で「被害者の会」を、結成させていただこうと思った程でした。ですから、今年の１年は争いに巻き込まれないように、穏やかで平和な１年を願うばかりであります。また余計な話をしてしまいました。

先程、辰年は「成長」・「成就」とありましたが、今年は教祖１４０年祭に向かう年祭活動2年目の旬に当たりますので、この尊い大きな旬にお互いが旬を追い風にして、心の成長と願い事が成就できるような、素晴らしい１年にさせていただきたいと思います。

それでは、今日は神殿講話ということですので、しばらくの間お時間お付き合い下さいますようお願いします。天保9年１０月２６日、旬刻限の到来と共に、親神様は、「我は元の神・実の神である。この屋敷にいんねんあり。このたび、世界一れつをたすけるために天降った。」と、教祖をやしろとして、この世の表にお現われ下さいました。そして、教祖は月日親神様のやしろとして、５０年に亘って

ひながたの道をお通り下され、口や筆に自ら身をもって、ひながたとしてお教え下されたのであります。

教祖のひながたは、人がたすかる道のひながた。人をたすけるためのひながたであります。そして、教祖は具体的なたすけ一条の道としておつとめを教え、そのおつとめの勤修と人間の心の成人をお急き込みになって、明治20年陰暦正月26日に、現身をお隠しになられました。これが教祖の年祭の元一日であり、その元一日に立ち返って、三年千日と仕切って心の成人の道を歩ませていただくのが、教祖の年祭活動であります。

私達城山につながるお互いは、昨年の1年間大教会記念祭の仕上げの年と、年祭活動1年目が同時進行となり、11月20日に記念祭を無事に終えさせていただきました。記念祭という大きな目標も終わり、今月の26日ご本部春の大祭の日から、教祖の年祭活動もいよいよ2年目に入りますので、この大きな目標に向かって、共に勇んでつとめさせていただきたいと思います。

私達は毎日のくらしの中で、誰でも大切だと思うことが幾つかあると思います。もちろん、皆それぞれに価値観も立場も環境も違いますので、大切に思うことも違うかもしれません。私は生きていく中で大切なことの一つに、目標をしっかりと持つことがあると思います。そして、その目標の達成の為に、良きことはそのまま続いていけるように、足りなかったことは少しでも改善をして、前に進めるように実行実践をしていくことだと思います。

目標には、最終目標もあれば長期的な目標もありますし、直前の短期目標もあります。そこで、目標を持っていないと起こってきた出来事を、周りからの話に考えがブレてしまって道が逸れてしまい、結果、遠回りをすることになったり、引き返さなければならないことにもなりかねません。目標を持つことで、生き方や考え方受け止め方が変わっていくように思います。

私は、人より特別に優れた能力も才能もなければ度胸もありませんので、正直立派なことや大きなことはできません。けれども、自分で定めたことや目標に向かって、小さなことでも地道にコツコツと積み上げていくことを心掛け、そして、それがいつの日か神様が受け取って実を結ぶことを信じて、先を楽しみにして通らせていただいております。

教祖の年祭活動も、まもなくして2年目に入ります。私達お互いに年祭活動が始まってからのこの1年間、心定めや目標を持って頑張ってつとめてまいりました。今一度これまでの歩み方を振り返り、良かったことはこのまま続いていけるように、足りなかったことは改善をして、心新たに年祭活動2年目に入らせていただきたいと思います。諭達第四号の中に、「教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである。」と、このようにお示しいただきます。ですから、教祖140年祭に向かって教祖のひながたを目標にして、自分にできるにをいがけおたすけに精一杯つとめて、教会内容の充実につながせていただきたいと思います。

今日は春の大祭を皆さんとご一緒に、賑やかに結構につとめさせていただくことができました。春の大祭は、教祖が子供の成人を思う深い親心から定命を25年お縮めになり、現身をお隠しになられた、明治20年陰暦正月26日の大きな節を、元一日としてつとめる大祭です。

今もお話しましたように、教祖は子供の成人を思う深い親心から現身をお隠しになられましたが、成人とはどういうことなのか。

おふでさきに、

月日にわにんけんはじめかけたのわ

よふきゆさんがみたいゆへから（十四25）

と、親神様は私達人間の陽気遊山が見たいと思召し下さっていますので、成人

とは、私達が日々陽気ぐらしができるようになることだと思います。

私達が生きていく上で、調和を保つということがとても大切なことだと思います。なぜなら、バランスよく生きることが、私達の幸せにつながる元になると思うからです。たとえば、健康に暮らすということは、身体の中の働きがバランスよく調和が保たれていることで、食べ物を体内に取り入れ、取り入れたエネルギーをもとに運動をしたり働いたりして、バランスがとれている状態が健康であることの証しだと思います。家庭でいえば、家族が仲良くたすけあい支え合って暮らすのが、調和の保たれたバランスのよい家庭だと思います。

昨今の日本の社会状況は、目に見えるもの形に表せるものに捉われ過ぎてしまい、目に見えない心や精神というものを、重要視しなくなってきているように感じます。そして、あれが欲しいもっと欲しいと欲に切りない生き方や、今さえ良くば自分さえ良くばという自己中心的な生き方が当たり前のように存在して、健康のバランスや家庭のバランス、社会のバランスをも壊してしまい、陽気ぐらしとは反対の社会状況になっています。

それでは、私達は日々どれだけ陽気ぐらしをしているでしょうか。私達は日々親神様の限りないお働きのもとに、命をお与えし身体をお借りして、ご守護先取をして生かされている私達人間です。そして、私達はこのお蔭だけでなく衣食住をはじめ、便利で豊かな時代に身を置かせてもらい、他にも周りを見渡して考えてみれば、たくさんのお蔭を頂戴している私達です。

しかし、その結構過ぎるお蔭が頭では分っていて喜べるはずなのに、そのお蔭が本当に心に治まっていない為に、私もそうなんですが、目の前に自分の都合が悪いことが起きてくると、つい自分のことを棚に上げて、人のせいや環境のせいにしてしまうことがあります。このようなことなので、感謝をすることよりも不足や愚痴が先に立ってしまい、形ばかりの自分に都合のいい信仰になってしまっています。そして、身上や事情をはじめ、自分にとって頭を抱えるような困っ

たことをお見せいただいた時に、改めて自分自身の通り方に不甲斐なさを感じ、心改めさせていただこうと気付かせてもらう反省の繰り返しです。けれども、反省の繰り返しの中で自分自身を顧みて心改めようと気付かせてもらえるのも、親々の伏せ込みからいただいているお徳のお蔭と、教祖の尊いみ教えを聞かせていただいているからこその、信仰のお蔭だと思っております。

みかぐらうたに、

なんぎするのもこころから

わがみうらみであるほどに（十下り目七ツ）と、このようにお教えいただきますが、

この世界は願い通りではなく心通りの世界で、私達の心一つ思い一つでどんな尊い大きなご守護をいただけるかわかりません。私達人間は親神様が陽気ぐらしをするのを見て、共に楽しみたいと思われて創られた私達ですので、誰もが陽気ぐらしができるはずなんです。ですから、日々陽気ぐらしの心をつくれるよう努力を積み重ね、昨年より心豊かな成人をさせていただくことを、今日の春の大祭の良き日に、皆さんとお誓いを申し上げたいと思います。

そして、今年の１年を感謝と喜びを少しでも多く見つけて、嬉しいことや楽しいことはみんなで分けあって大きくして、辛いことや悲しいこともみんなで分けあって小さくしていけるように、皆さんと心一つに通らせていただきたいと思います。

最後になりますが、今月の４日におぢばに帰らせていただき、諸井世話人先生を通して、城山大教会立教１８７年の心定めを、ご本部へ提出をさせていただきました。祭文でも申し上げましたように本年の心定めを、初席者数１５名、よふぼく数１０名、修養科修了者数１０名、教人数５名、御供年額１，５００万円と定めさせていただきました。どうか、親神様・教祖とお約束をしたこの心定め目標が

達成できるように、お力添えをいただきますことを最後に深くお願いを申し上げて、神殿講話とさせていただきます。ご静聴下さり有難うございました。